

(様式) 令和元年度 馬頭中学校 学校評価報告書

評価項目	評価	取組状況・成果・課題	改善策	学校関係者評価・第三者評価でいただいた意見等
各学校での目標（重点は○数字）・具体策				
I 特色ある学校づくりのための学校運営				
1 学校経営の充実	B	<ul style="list-style-type: none"> ・NIEの時間を通して新聞を読み自分の考えを書く力が高まった。 ・地域貢献活動や松が峰タイムでコミュニケーション能力の育成を目指したがさらに充実した活動を目指したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションスキルの一層の向上を図るため、学校行事や生徒会活動をはじめとする異年齢間活動をより工夫改善し、実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・NIE活動は特色ある学校づくりや現代社会を知るために適したツールといえる。更なる浸透を目指してもらいたい。
2 調和と統一のとれた教育課程の編成	B			
③ 感動と感化のある特色ある教育活動の実施（NIE活動等）	A			
II 確かな学力の向上を図る学習指導				
1 主体的な学習態度の育成	B	<ul style="list-style-type: none"> ・自主学習ノートを利用して、家庭学習の充実を図り、その成果を賞賛することで意欲が高まった。 ・ICTの有効利用を推進しさらに探求的な学習に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のねらいを明確にし、ICTを活用したわかる授業を展開するとともに、個に応じた指導と家庭学習の習慣化を図る指導を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自主学習ノートを利用し、評価するやり方は、一方通行ではなく生徒と先生間の信頼性を担保しているので学力向上に適した指導方法と言える。
② わかる楽しい授業の展開	B			
3 家庭学習の充実	A			
III 自己指導能力を高める児童・生徒指導				
① 自己有用感を高める指導の充実	A	<ul style="list-style-type: none"> ・個人が存在感をもち、周囲から承認されるような教育相談の充実を図った。 ・チームとしての指導体制を一層充実させ、迅速・誠実・公平な指導ができるようにする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「チーム学校」としての指導が実践できるように、専門性に基づくチーム体制を構築しマネジメント機能の強化を図り、生徒への対応を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校内部だけでなく、外部機関からも情報を取り入れて質の向上に努めている。
2 教育相談体制の構築	B			
3 組織的な対応	B			
IV 健康・安全、体力の向上				
① 健康で安全な生活態度の育成	A	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭と連携し、食に関する指導を展開し意識の高まりがあった。 ・教科指導と部活動で連携し、個に応じた体力づくりの推進を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新体力テストの結果を利用し、一人一人の課題を明確にした体力づくりや、粘り強く運動する習慣を育てる。 ・新たな危機に対応する避難訓練等を実施し、安全に対する意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭と連携した食に関する指導は評価できる。 ・体力づくりは生徒の負担を考慮して取り組んでももらいたい。
2 体力づくりの推進	B			
3 安全安心な教育環境の整備	A			
V 家庭・地域との連携				
① 地域の人材や関係機関と連携した活動の展開	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会と地域が連携した環境美化活動で、地域貢献や奉仕活動に意識が高まった。 ・各種たよりやHPでの、学校に対する関心が高まった。 ・PTA行事への参加率を高める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA行事を活性化し、保護者の学校への関心をさらに高めるようニーズに応じた内容を取り入れる。 ・小中、中高が連携する行事を実施できるよう連絡調整を行うことで、地域とともにある学校作りに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境美化活動は目を見張るものがある。生徒と一致協力して取り組んでももらいたい。 ・町全体を取り込み、あるべき学校像を想像しながら取り組むことも重要。
2 小中高連携の充実・推進	B			
3 「たより」や学校HPによる保護者・地域への情報発信	A			